Reconstruction Agency

第76号

つちおと

令和元年8月22日発行

宮城復興局気仙沼支所

気仙沼市笹が陣3-5 気仙沼市シルバー人材センター内



小泉海水浴場が 9年ぶりに再聞!!

7月20日、気仙沼市の小泉海岸と小田の 浜の2つの海水浴場で海開きが行われまし た。小泉海岸海水浴場は被災以来9年ぶり の再開で、小田の浜海水浴場は大島大橋 開通後初めてのシーズン入りです。

7月13日には、志津川の人工海水 浴場「サンオーレそではま」で

今シーズンの海開きが行われ、 多くの人々で賑わっています。 KOIZUMI

お伊勢浜及び大谷海岸も着々と 復興工事が進んでおり、復興・創生期間内の 海水浴場再開が望まれます。

SODEHAMA

2017~ 🔘



水浴場の再開を太鼓の演奏 で祝う地元の子どもたち

小泉海岸の砂浜は延長660m、広さ約3.9haあり、また県内で最 も高い海抜14.7m、長さ800mを越える防潮堤を有します。防潮堤 の法面にはブロックが約1万2千個積まれており、災害から命を守る

防潮堤としてだけでなく、イベントでの活用等も期待されます。







進む震災復興【大谷海岸(防潮堤)】 ~ 観光交流・防災拠点の形成へ前進~

今回は、宮城県気仙沼土木事務所で行っている大谷海岸の防潮堤事業を紹介します。

震災前の大谷地区は、大谷海水浴場の美しい砂浜や海、松林等の景観、地元の新鮮な水産物や野菜、加工品の直売施設、道の駅など、景観美・食・レジャーといった観光資源が一体となって集客力を有していました。特に大谷海水浴場は、環境省の「快水浴場百選」に選ばれ、震災前は年間約6万5千人が訪れる三陸沿岸部でも有数の海水浴場でしたが、東日本大震災により地盤沈下で砂浜が減少するなど甚大な被害を受けました。

大谷海岸の復旧事業では、防潮堤建設による砂浜の消失が懸念され、県内随一の海水浴客を誇った海水浴場の砂浜を復活させてほしい



震災前の大谷海水浴場:白砂青松の美しい海岸線を形成し、 多くの海水浴客に親しまれていた。(快水浴場百選にも選定)

との地元の意向を踏まえ、地元住民で構成された「大谷里海(まち)づくり検討委員会」との意見交換や国・県・市その他の関係機関が協議を重ね、防潮堤は国道45号と一体的に整備し、また極力陸側に配置することで、従前の広さの砂浜を確保する計画として平成30年1月工事着手となりました。また、国道背後地は、観光交流拠点かつ災害時の防災拠点を目的とした気仙沼市のまちづくり事業として、嵩上げを行うとともに道の駅、沿道型店舗、コミュニティー広場、駐車場を計画し、防潮堤と一体となった整備を行うものです。

このたび、大谷海岸の復旧事業工程で大きなポイントとなる国道45号の迂回路通行の交通切替が無事7月18日に実施され、今後防潮堤工事が本格化されます。宮城県が事業を行っている防潮堤の計画は堤防計画高が海抜9.8m、延長が約700mです。特徴としては海岸利用者の利便性を考慮して勾配の緩やかな緩傾斜提とし、防潮堤の法面は全面的に階段形状のブロックを採用しています。坂路は中央部に向け、中央部にはメイン階段、その他要所要所に階段を配置して利便性に配慮した計画としています。



宮城県気仙沼土木事務所からは「海水浴場再開や道の駅新設オープンもあり、スケジュールに影響がないよう 関係機関と工程調整を密に行い、安全管理を徹底して工事を進めていきたい。また、地域と行政が造り上げた計画 に沿いながらより良いものに仕上げていきたい。」とのお話を頂きました。



◆支所長コラム

6月中旬からの長い梅雨もようやく明け、晴天が待ち遠しく感じていたのも一変、連日の猛暑で夏バテ気味の今日この頃です。長い梅雨時期には、米や野菜などの農産物の生育が懸念され、三陸沿岸部でも気仙沼茶豆やイチゴ、本吉アスパラ、南三陸ネギなど特産物が多々栽培されており、収穫量が天候に影響されやすいので生産者の方々には非常につらい時期が続いていましたし、海水浴場も順次海開きとなりましたが観光の面でも一日も早い梅雨明けが期待されておりました。そんな梅雨時期もようやく明け、梅雨明けとともに地元にも明るい兆しも見えました。これまで不振が続いていたカツオの水揚げが好調になってきている話題です。一ヶ月以上水揚げの不振が続き「連続日本一の水揚げ」や、「かつお祭り」の開催が危ぶまれましたが、一本釣り船や巻き網船の入港も増え始め、かつお祭りも無事開催となり23年連続日本一への巻き返しに向け活気がついてきました。沿岸部の基幹産業である水産業が活気を取り戻し、地域が元気になり一日も早い復興につながってもらいたいと願います。

また復興に関して、8月5日に自民・公明両党から「東日本大震災復興加速化のための第8次提言」が提出され、2020年度末に設置期限を迎える復興庁に関し当面存続させる方針が明記されました。今後は年内に後継組織の具体的なあり方をお示しできるよう検討を進めて行くこととなりますが、支所としても復興の総仕上げとして、円滑な復興事業の推進と残る課題解決に向け取り組んでいきたいを思います。私自身も気仙沼、南三陸の特産物、旬の食材をいただき、地域の元気をもらいながら復興業務に励みたいと思います。(高信)

復興関連イベント 各地で開催される復興

【9月14日(土), 15日(日)】 ツール・ド・東北 2019

今年もツール・ド・東北が開催されます!2013年から始まった同イベントは、東日本大震災の復興支援と震災の記憶を残していくことを目的としたもので、10年連続開催を目標のひとつとしています。気仙沼発100kmのコースは、9/15(日)、PIER7(旧気仙沼エースポート)をスタートし、南三陸町を縦断、石巻専修大学のゴールを目指します。

公式サイト ⇒ https://tourdetohoku.yahoo.co.jp/



これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます。

復興庁HP (http://www.reconstruction.go.jp/) ⇒ <u>宮城復興局</u> ⇒ <u>気仙沼支所だより「つちおと」</u>

【編集後記】

◆夏が終わりに近づくと、宿題をしていない焦りを何歳になっても思い出します。小学生の方はがんばって下さい。

「つちおと」発行元(お問い合わせ先)

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所 電話 0226-23-5301、FAX 0226-23-5310